市長と語ろう！ほっとおしゃべり会@阪谷公民館　結果概要

日　時　令和８年１０月２１日（水）午後２時～３時
場　所　阪谷公民館
参加者　市民　１１名

結果概要
１　あいさつ（市長）

２　趣旨説明（竹田室長）

３　災害時の避難行動と新たな気象情報について説明（市長）

４　意見交換（フリートーク）

①北美濃地震の体験

参加者：北美濃地震を体験したことがある。あのときは鳩ヶ湯がやられた。

参加者：私は、九頭竜川で水泳をしており、川が津波みたいになった。絶えず余震もあり、寝られなかった。

②山林火災の予防について

参加者：今年の春先には東北地方などで大規模な山林火災が発生した。大野市でも過去に山林火災が発生しており、山菜採りなどで山に入る際の火の不始末が火災につながるおそれもある。山林火災を防ぐため、山に入る人への注意喚起など、対策をしてほしい。

市長：火を使う場合、事前に消防への届け出に加え、森林を所管する市や県の担当部署への届け出が必要となる場合がある。地域の消防団と協力しながら、いざというときに備えていただいていることはありがたい。

また、空気が乾燥する時期には火災への注意を呼び掛けている。市公式 LINE でも、乾燥が続いているときに、山で火を使う際の注意喚起を配信している。

参加者：市役所に聞いたところ、林道と作業道があり、作業道にはゲートがあり、車が入ってこれないようになっている。林道にもゲートを作ってもらえないか確認したが、林道には設置できないと言われた。林道を作業道に格下げすればゲートを設置できると言われたが、作業道だと災害で道が破損しても修繕ができないと言われた。

市長：悩みは理解した。

③放課後子ども教室などについて

参加者：子育て中の立場から、保育園や児童館が充実していることに感謝している。

夕方まで子どもを預けられる環境があることで、働くことができている。
今後も保育園や児童館の機能を充実させ、現在の手厚い保育を希望する。

参加者：ある小学校の運動会を見に行くと、保護者の意見があってなのか、全児童が参加する 50mや 100mの徒競走がなく、選抜された児童による徒競走のみであったため、残念であった。
また、プールの授業もバスで行かなければならない。昔とは児童数も環境も違うので、何を望むというわけではいが、プールで楽しい思いをしてもらう機会がもっとあるといいなと思った。

市長：放課後子ども教室や児童館など地域の方々が大事にしてくださっていることは、とてもありがたく思う。保育に携わる職員もとてもうれしいと思う。
徒競走の部分は、保護者の意見や教育現場のことであり、いろいろ改良しなければいけないことが最近増えてきているみたいである。
プールに関しては、近年の気温上昇や熱中症対策により、屋外での活動が制限される関係でＢ＆Ｇになっているのではないか。熱中症対策としては、体育館の空調整備も急いで行っている。

④災害時の避難や安否確認等について

参加者：主人と二人で暮らしているが、主人は体調が悪い。災害が起きたとき、どう安全に避難できるか常に考えている。持ち出し袋の中身はいつも点検して、玄関に置いている。今日参加したのは、みなさんはどう考えて避難するようにしているか伺いたい。

参加者：私も二人暮らしをしている。最近の雨の降り方がすごくて、今までの降り方とは違う。子どもたちが近くにいないため、子どもからすぐに逃げるよう言われている。８月の大雨のときも阪谷公民館に避難した。

参加者：大雨のときは、家が山際なので、後ろからの土砂が怖い。

参加者：六呂師は高い場所なので、川の氾濫とか雨とは大丈夫かと思っていたが、８月の大雨で山が崩れたり、田んぼが崩れたりしてとても怖かった。

参加者：３日分の非常食を私たちも用意している。でも急に避難しなければいけなくなったとき、食料を持ち出せない場合もある。そのとき、避難所に食料が人数分用意されているのか。
次に、地震が発生したときに、集落の人たちの安否確認をどうすればよいか。例えば、私の家だと〇〇さんの安否確認を行う役割があったと仮定して、その時使えるマップなどあればいいのではないかと思う。集落のそれぞれで誰の安否確認をすると決めるなどの形をとってもらうのがいいのでないかと思うが、どのような安否確認の方法を行っているか教えていただきたい。

参加者：地域防災マップがあるが、それもあまり浸透していないように感じられる。

参加者：避難所にある程度食料やベッドなどが備蓄してあると、住民も安心して避難できると思う。

市長：避難所の食料等の備蓄については、阪神淡路大震災時のデータを基にガイドラインがあるので、それに基づいて、市と県で 3 日分の食料などを備蓄している。激甚災害となると県の保管庫からも食料が届けられる。市は防災倉庫に備蓄しており、職員が各避難所に運んでいる。スーパーとも連携協定を締結しているので、そうしたところからも物資を運んでいただける。もっと激甚になると自衛隊にもご尽力いただく。段ボールベッドなど持ち運びしづらいものは、あらかじめ各避難所に置いてある場合もある。

地区の方の安否確認について、３日前には大雨の情報が分かってくる。マイタイムラインやコミュニティタイムラインなど作成し、雨の状況に応じた避難行動や、避難所までの道を確認する、近所の人と話しておく。など自分自身であらかじめ準備することを推奨している。

今日初めて知ったという方もいらっしゃると思うので、この話題を持ってきてよかった。

参加者：８月に実際避難して、非常食を食べた。美味しかった。今度避難所開設したときに、みなさんも試してみるとよい。

参加者：花房区は、グループ LINE で住民がつながっている。みなさんも集落内や組織内でグループ LINE を活用したらいいと思う。以前不審者が夜出たという事案があり、それを契機にグループ LINE を始めた。

⑤阪谷小学校の跡地活用について

参加者：児童数の減少に伴い、学校などの施設が地域からなくなっていくことに懸念を感じている。子どもが減ったから学校も無くすのではなく、地域の活力を維持するため、別の活用方法を検討してほしい。阪谷地区は、災害時に道路が寸断されるなど、地域外への移動が困難になるおそれもある。避難所として指定されている施設には、備蓄品を置くなど、地域の立地条件に応じた対策を講じてほしい。

市長：小学校の跡地については、これまで地域住民から活用案を出してもらい、座談会などを重ね、昨年秋に一度提案を受けている。まずは子どもたちが安心して教育を受けられることを重視し、４月から富田小学校への通学が始まった。今後の活用については、地域からの提案も踏まえながら、具体的な検討を進めていく段階にある。旧阪谷小学校については、子どもたちの居場所として活用することを先行して検討しており、設計などに必要な予算を確保して準備を進めている。

ただし、学校として使用していた建物を別の用途で使う場合には、建築基準法上の確認や安全面の整理が必要となる。そのため、設計を見直し、建築確認の手続きを進めている。手続きが終われば、まずは子どもたちの居場所として活用するための工事を進める予定である。体育館については、これまでどおり利用できるようにしており、星空観察などの活動にも活用いただけるとよい。

市内の施設をすべて建て替えて維持管理することは難しい面もある。今後も使える場所を整理し、有効に活用できるよう検討していく。

⑥鳥獣害について

参加者：サルやクマなどの野生動物による被害について、地域住民が自ら費用を負担して柵を設置するなどの対策を行っているが、個人や地域だけで対応するには限界がある。行政としても、被害を軽減するための対策を検討してほしい。

市長：鳥獣害対策については、地域住民が柵の設置や追い払いなどに取り組んでいることに対し感謝している。市としても、地域の猟友会などと連携し、イノシシやサルなどの捕獲を行っている。ただし、捕獲だけで被害を完全に防ぐことは難しい。野生動物を地域に近づけないためには、農作物などを放置せず餌場をつくらないこと、草刈りなどによって人里と森林の間に緩衝帯を設けること、電気柵などで侵入を防ぐこと、追い払いを行うこと、さらに捕獲によって個体数を管理することが重要である。

⑦プラスチックゴミについて

参加者：プラスチックごみの分別・回収について、以前から各地区で説明などが行われているが、十分に浸透していないと感じている。

市長：プラスチックごみの分別・回収については、回収品目を増やせないかという意見も踏まえ、担当部署で検討している。

⑧星空に関する人材育成について

参加者：大野市は星空が美しい地域であり、星空観察を通じて子どもたちに学ぶ機会を提供できる。しかし、小学校を卒業すると、天文活動を継続できるクラブなどが少なく、活動を続ける人材が育ちにくいという課題がある。阪谷小学校を教育や人材育成の拠点とし、子どもたちが継続的に星空について学べる環境を整えてはどうか。また、スターランドさかだを観光誘客につなげるためにも、星空の魅力を伝えられる人材を育成する必要がある。

市長：市内では、子どもたちが星空観察に参加する機会もある。星のまち鑑賞会の活動を地域でも知ってもらい、各種団体の研修や学習会などで活用してほしい。旧阪谷小学校の活用についても、星空観察などの施設として活用できるかなど地元の意見があるとありがたい。

5　閉会